

安心安全で魅力ある京都づくりのための 治水・地域振興策の推進について

【担当省庁】国土交通省

安心安全な暮らしを守り、持続可能で魅力ある京都づくりのため、治水・地域振興策の必要・十分な予算の確保とあわせて、以下について要望する。

〔淀川水系〕

- 河川整備計画に基づく、河道掘削や堤防強化等の河川改修
- 最優先の課題である桂川の治水安全度向上のため、特に、一の井堰改築を含む嵐山地区の流下能力向上について、引き続き、国・府・市協力のもと、設計案の具体化と早期着工
- ^{しなで}科手樋門（木津川）など、浸水実績を踏まえた樋門の新設・増強
- ^{だいどがわ}大戸川ダム建設の積極的な事業推進と費用縮減
- 万博後も引き続き更なる淀川舟運活性化を図るための航路確保・維持と緊急船着場・係留施設整備

〔由良川水系〕

- 近年の豪雨災害の激甚化・頻発化に対応するため、令和5年に変更された河川整備基本方針やこれまでの河川改修の進捗等を踏まえた、流域治水型の河川整備計画への早期変更と切れ目ない対策

【現状・課題等】

- 淀川三川で最も治水安全度が低い桂川の改修促進は喫緊の課題であり、特に嵐山地区の改修は、上流の府管理区間の改修にも大きく影響する。
- 嵐山地区の一の井堰改築に向け、現在の堰管理者や景観等の専門家から意見聴取を行っており、意見を踏まえた設計案の具体化が必要である。ステークホルダーが多く、調整が難航しているところ、国・府・市協力のもと問題を解決し、早期着工する必要がある。
- 大戸川ダム建設事業については、本体工事などの着工に向け、調査などを行っている段階であり、費用縮減を徹底した設計の早期完了が必要である。
- 淀川舟運の活性化にあたり、舟運の定期的な運航のために河道掘削等による航路確保・維持が必要である。また、災害時における舟運活用促進のために実運用を踏まえて舟運を活用した防災計画を策定し防災拠点となる緊急船着場・係留施設を整備することが必要である。
- 由良川水系の河川整備については、将来にわたり安定的な事業量の確保と更なる治水安全度向上のため、変更された基本方針に基づき、地域住民や流域自治体の意見を聴きながら、早期に河川整備計画を変更し、ハード・ソフト一体の流域治水の取組を進める必要がある。

京 都 府 の担当課	建設交通部 河川課(075-414-5282)
---------------	-------------------------

【国の事業等】

■治水事業〔国土交通省〕 12,711億円（令和6年度補正含む）

【京都府の被害状況】

■京都府の近年の主な浸水被害状況

		H24 府南部豪雨	H25 台風18号	H26 8月豪雨	H29 台風18号	H29 台風21号	H30 7月豪雨
被害	床上浸水	906棟	1,482棟	1,835棟	130棟	335棟	539棟
状況	床下浸水	2,378棟	3,326棟	2,716棟	1,119棟	516棟	1,734棟
浸水被害発生 河川		弥陀次郎川(天井川)、古川、志津川、堂の川他	直轄由良川・桂川、安祥寺川、四宮川、堂の川、鴨川、桂川他	弘法川、法川、榎原川、大谷川、八田川	相長川、竹野川、小西川、福田川、新庄川、滝馬川、筒川他	直轄由良川、高野川	直轄由良川、高野川、伊佐津川、竹野川、佐濃谷川他

■内水による浸水状況

- ▶ 八幡市街地：床上浸水30戸、床下浸水856戸（平成25年台風第18号）
- ▶ 由良川沿川：床上浸水215戸、床下浸水302戸（平成30年7月豪雨）

■洪水時の河川の状況



平成25年台風第18号
桂川洪水状況（京都市嵐山）



平成25年台風第18号
由良川洪水状況（福知山市河守）